東北大学附属図書館報
木這子
BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

分館紹介

農　学　分　館

農学分館は現在は仙台市のほぼ中心部といえる雨宮キャンパスにあります。ここは，大正14年から昭和20年の仙台空襲の日まで旧制第二高等学校があった由緒ある所です。旧制二高の跡地であることから，キャンパスの中には旧制二高生の粟野健次郎教授への敬慕の念を託して建立された粟野観音像や「中杉山明善寮分散歌」「二高雄大剛健之碑」等の記念碑があります。キャンパス内の圃場や温室で実習をしている学生の姿やゆったりと草を食んでいる羊の群を眺めていると，ここが市街地であることを一瞬忘れてしまいそうになります。この様にのどかな環境の中で，農学分館は遺伝子実験施設と附属農場，附属海洋生物資源教育研究センターを含めた農学部の教職員，学生に図書館情報サービスをしています。農学部の研究内容は，従来の農学，畜産学，農業経済学，水産学，農芸化学，食糧化学に近年急速に研究が進歩したバイオテクノロジー，バイオサイエンスが加わり，一層多岐に渡るようになりました。

農学部は昭和22年に創設され，翌23年に職員１名で農学部図書室が置かれました。発足当時文献資料面では戦後の極めて厳しい状況であり，蔵書は50冊だったということです。

昭和25年，農学部はそれまで仮住まいしていた片平の農学研究所から北六キャンパス（現雨宮キャンパス）に移転し，図書室も研究棟の一隅に引っ越しました。

その後プレハブを増設して図書事務室としていましたが，その環境は決して快適とはいえず「冬は寒さに凍え，夏はうだる暑さにたまらず屋根に冷却用流水装置を設けるなど工夫をこらしひたすら耐え凌いだ。」と小野和夫氏（元農学分館図書掛長）は「東北大学農学部50年史」の中で当時の様子を語っておられます。

昭和53年４月に農学分館となり，翌54年４月に学部創設以来32年目にして，キャンパスの中央に農学部のシンボルとして相応しいアカデミックでしかも快適な図書館を建てたいという先生方の一心の期待を集め，農学分館が新営されました。赤煉瓦風のタイル張りの建物は，百合樹，金木犀等の樹木の緑と見事な調和をなし，当時は４分館の中で最も早い竣工であったこともあり話題をよびました。新装なった分館は総面積1,270㎡，空調設備，エレベーター，カーペット敷きで，余裕のある閲覧空間と書架は，利用者にとって大変快適でした。しかし，竣工以来20年を経た現在は増加する資料の収納のために閲覧スペースを削って書架を増設しなければならない程，狭隘が深刻になってきています。竣工時より既に分館の西側に増設する青写真が出来上がっていましたが，本学の青葉山へのキャンパス移転構想が現実的に論じられるようになった今は，農学分館の増築が実現する可能性は殆どなくなりました。学生が学習するスペースを割くことや，書庫にもっとゆとりがあれば保存しておきたい資料を処分していかなければならないことは，実に残念です。

分館の蔵書数は約12万冊で，約1,500タイトルの逐次刊行物を収蔵し，閲覧室と書庫を分離せず，全館開架方式を採用しています。

農学部教授会は創設時から「図書は図書室に集中し，講座間ではできるだけ重複を避ける」との申し合わせがなされ，農学部の雑誌コレクションは小規模ながら質を高めてきました。し

かしながらここ数年の外国雑誌の価格高騰のために予算的な問題から，農学分館の目玉商品ともいえる Biological Abstracts と Chemical Abstracts の二次資料の購入中止という決断を余儀なくされました。現在は本館が提供するデータベースの活用，他分館との共同購入によって補っています。

特色ある資料として，昭和25年創刊の農学部紀要“The Tohoku Journal of Agricultural research”の交換誌として収集した海外約500機関の農業，漁業に関する Annual Report 類があります。農林水産省，各都道府県の農業研究所，試験場の研究報告書類はほぼ網羅的に収集しています。又，農林水産省図書館から配布される国連の食糧農業機関（ＦＡＯ）の刊行物も当分館の特色ある資料のひとつです。

２階の論文室には，修士，博士論文約3,000冊を保管しています。電子図書館化の試みのひとつとしてこの４月からパソコンで論文著者を検索出来るようデータベースの入力作業を始めています。

昨年より「応用生命科学入門」という一年生の授業の中で図書館資料のパソコンによる検索が実習に加えられました。分館職員が一年生180名全員に対して４月から７月までに６回のオリエンテーションで端末機とパソコンの指導にあたり学習支援の一環を担っています。

農学分館はキャンパスの中央に位置してどの研究室からも至近距離に立地しているという理想的な環境を生かして，図書館サービスをいかに展開していくか，そして狭隘という問題を視野に入れながら機能的な図書館作りを目指して職員一同で模索しているところです。

所在地　仙台市青葉区堤通雨宮町１－１
電　話　022-717-8627
ＦＡＸ　022-263-9296

オンライン・ジャーナルの利用と学術雑誌の危機

情報サービス課参考調査掛長　佐　藤　義　則

図書館では，1997年２月よりElsevier社のオンライン・ジャーナル供給システムEES(Elsevier Electronic Subscription)をもとに，TAINSを介して全学に向けオンライン・ジャーナルサービスを試行してきた。

ここでは，EESの利用状況をもとに，学術情報流通の新たな手段としてのオンライン・ジャーナルの状況を紹介し，その可能性と問題点について簡単に紹介したい。

[EESの試行]

本学ではElsevier社が発行している約1,200タイトルのうち，およそ550タイトルを継続購入している。この試行では，このうちの物理学分野（79タイトル）から50タイトルを選び，1996年から1998年の間に刊行されるものを対象にサービスを行っている。

このサービスは，ORION社のScience Serverというオンライン・ジャーナル提供システムを使用し，データはCDROM媒体で毎週，航空宅配便で送られて来る。利用は，タイトルごとにアクセスし巻号から論文にアクセスする，あるいは論文の抄録や書誌事項・キーワードを対象とした検索を通して論文にアクセスする，といった方法による。なお，記事本文については，PDF形式ファイル（Adobe社から無償で公開されているAcrobat Readerを使用して読むことができる）でのみ提供される。

今回の契約は，東北大学の構成員ならば誰でも利用可能とする，いわゆるサイト・ライセンス方式である。このため，学外からのアクセス，及び学外への再配布は行えない。

1998年４月現在の利用登録は192ユーザ（研究室単位）に及び，論文へのアクセス件数は全体で19,066件に上った（平成９年４月～平成10年３月)。

タイトル別では，Chemical Physics(4,053件)，Journal of Magnestism & Magnetic Materials(2,474件)，Chemical Physics Letters(2,309件）以下と続いている。

[オンライン・ジャーナルの状況]

今回の本学におけるEESは，大学図書館にサーバを置く，いわゆるローカル・マウント方式を採っている。一方，出版社自身が運営するサーバにネットワークを介してアクセスする，リモート・アクセス方式も数多く行われている。1998年の雑誌購読においては，数多くの出版社が冊子体購読者に対してオンラインアクセスを無料で提供することが行われている。例えば，Springer Verlag, American Institute of Physics, Oxford University Press, American Mathematical Society等がこのような方式をとっており，図書館ホームページにおいて，400近いタイトルに対してリンク集を作成している。

(http:// www. library. tohoku.ac.jp / olj__alpha.html)

また，Academic Press, American Chemical Society等では，冊子体価格に加え14%～30%程度の価格上乗せにより，リモート・アクセスの権利を添付するケースも見られる。

[コンソーシアムとアグレゲータ]

ローカル・マウント方式には，大学を単位とするものだけでなく，欧米の大学では，複数の大学が集合体としてコンソーシアム(協同組合)を形成する方式が採られることが多く見られるようになってきた。例えば，米国オハイオ州のOhioLINKでは，Elsevier, Academic Pressの全タイトルについて，加盟する56の大学構成員が利用可能となっている。

また，２次情報を扱う出版社や雑誌の仲介業者が，複数の出版社の雑誌を統合的に供給する方式（アグレゲータと呼ばれる）も見られるようになってきた。

このような方式のメリットは，複数の出版社から出される雑誌を，統一されたインターフェイスにより利用可能であること，また論文間のリンクなど機能向上の可能性もあることなどにある。

［オンライン・ジャーナルのメリット］

一般に，オンライン・ジャーナルのメリットとしては，次のような点があげられる。

① 場所,時間に関わらず利用可能である(いつでも，どこでも)
② ダウンロードによる個人ファイリングの効率化（の可能性）
③ 保存のための費用・スペースの削減（図書館等における，製本費用や書架スペースの削減）
④ これまでにない検索機能（論文の全文を対象とした検索）
⑤ 相互リンクの可能性（論文と論文，索引・抄録情報と論文，等）
⑥ 利用統計情報の採取

［問題点・課題］

一方では，問題点や課題も数多く残されたままである。

① 供給までの時間（タイム・ラグ）
② 画像の品質
③ サービスの主体(出版社自身か,コンソーシアムか，等)
④ 価格決定方式の不透明さ
⑤ 自由な情報流通に対する制限の可能性
⑥ 費用の増大（購読経費，サーバ維持・管理経費，ネットワーク環境，等）

［背景としての「学術雑誌の危機」］

上記にあげた問題点・課題のなかで，最も気がかりな点はオンライン・ジャーナルを含めた雑誌の価格がどうなっていくかという点である。なぜなら，本学における外国学術雑誌の購入においても，その維持がきわめて困難になっていると考えられるからである。

本学がEESで提供している雑誌（50タイトル）の購読と価格の状況について，1995年と1998年について比較してみると，１タイトルあたりの平均単価（円）は，1995年では276,480円だったのが1998年には382,463円と，率にして38.33%の上昇となっている。50タイトルの1998年における原価は全てギルダー建てであるので，1995年から1998年にかけてのギルダーの為替レートの変動率6.24%を割り引くと，実質の価格上昇率は30.20%となる。これは，年平均では約９%の上昇である。

一般に，学術雑誌の価格は年平均10%強の上昇を続けてきていると言われており，上記の数字はほぼこれに合致していると考えられる。東北大学全体としては，1995年には7,328タイトルを約４億円で購入していたが，1998年には6,984タイトルで５億５千万円を越す金額が見込まれている。タイトル数はかなり減少しているにもかかわらず，金額は大幅に伸びているのである。

雑誌原価の上昇が20年来続いてきたにもかかわらず，雑誌購読に大きな影響を与えてこなかったのは,円高傾向が続いてきたおかげである。しかし，今般の円安傾向は，逆に更なる大幅な価格上昇をもたらす危険性をもたらしている。

表１の右側では，現在と1995年の為替レートを比較してみた。これに，1998年の通貨別比率をもとに，年平均10%の価格上昇が続いていると仮定して計算を行ってみると，来年度は1995年に比較して実に1.94倍の価格上昇が見込まれることになるのである。

（表１）

	1995	1998	上昇率	1998.6.25	対95上昇率	原価上昇	総上昇率	通貨比率
米ドル	100.71	122.42	1.2156	138.65	1.3767	1.4641	2.0157	45.51%
英ポンド	161.88	200.65	1.2395	233.42	1.4419	1.4641	2.1111	11.11%
独マルク	65.27	69.75	1.0686	77.49	1.1872	1.4641	1.7382	7.34%
仏フラン	19.29	20.96	1.0866	23.31	1.2084	1.4641	1.7692	1.41%
スイスフラン	78.59	84.48	1.0749	92.81	1.1809	1.4641	1.7290	1.18%
蘭ギルダー	58.27	61.91	1.0625	68.74	1.1797	1.4641	1.7272	32.18%

（年平均10%）	98.74%
平均上昇率 for 1999	1.9048
同上（消費税増み）	1.9418

［オンライン化による価格は？］

オンライン・ジャーナルが，大学側にとっては価格高騰への，出版社側にとっては相次ぐ大規模なキャンセレーションへの歯止めとして，期待を寄せられた時期もあった。むしろ，オンライン・ジャーナルへの設備投資が価格上昇の原因として説明されかねない状況にある。

最も重要なポイントは，価格体系が明確になっていないという点である。これは，出版社が未だに売り上げの大部分を冊子体に依存しているため，オンライン化によって市場にどのような変化が生じるのかを予想することが困難なために，いまだに価格体系の提示をためらっている，あるいは高めに設定せざるを得ないということが背景になっている。

［今後に向けて］

先に紹介したコンソーシアムによる共有コレクションの形成は，スケール・メリットによる価格の低減化ということももちろんであるが，大学側・出版社側の双方の協力による市場の形成によって，何とか現状を打開していこうという方策であるとも言える。

一方では，行き過ぎた価格高騰の原因を，出版社があまりに利潤追求を推し進めた結果だと非難し，プレプリント・サーバをベースにしてエディタ制のオンライン・ジャーナルを新たに起こしていこうという活動も生じている。また，米国では，ARL（Association of Research Libraries; 米国研究図書館協会）が，AAU（Association of American Universities; 米国大学協会）の協力のもとに，高額雑誌と競合する分野において，新たに低価格のオンライン・ジャーナルを創始し，市場を改善していこうという動きもある。なお，このARL•AAUの一連の動きの中では，研究者の業績評価方法の見直し，著作権の大学内・学会内への留保，といった点についてキャンペーンを試みるなど，より本質的な面でも改善を図っていこうという姿勢がみられる。５年から10年の期間で見れば，確実に学術情報の流通のあり方が大きく変化していくことが予想される。

短期的には，価格高騰の中で，本学における雑誌タイトル数の減少にどう対処するのかが大きな課題である。一挙にコンソーシアム形成とは行かないにしても，全学規模での購入調整，購入の枠組みの検討が緊急の課題になっていると考えられるのである。

（さとう・よしのり）

「学内定期刊行物の状況調査」

図書館電子図書館委員会
資料電子化班

学術審議会の建議「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」（平成８年７月２９日）において提言されたように、大学図書館に対しては学内関連施設との連携・協力のもとに電子図書館的機能を推進していく役割が求められるようになっている。

本学図書館における電子図書館的機能の在り方を検討する際の基礎データのひとつとして、図書館では、平成10年１月から３月にかけて、学内で出版されている定期刊行物に関するアンケート調査を実施した。この調査は、資料の電子化が急速に進行しつつある状況のなかで、紀要等の刊行物が総体としてどのような状況にあるか、どのように電子化されているか、を把握することを目的としたものである。以下、調査結果の概要を報告する。

※回答状況　依頼　141件、　うち回答あり　124件、　追加として 9件

１．出版状況・形態について

１．刊行状況はどうなっていますか。

＜回答＞

A	継続刊行中	110 誌
B	休刊中	4 誌
C	廃刊	8 誌
	その他	2 誌

刊行物として出版していない。(1件)
平成10年３月初版予定(1件)

２．刊行頻度はどの程度ですか。

＜回答＞

A	年２回以上	32 誌
B	年１回	64 誌
C	不定期	7 誌
D	その他	10 誌
	未刊行	2 誌
	回答無し	1 誌

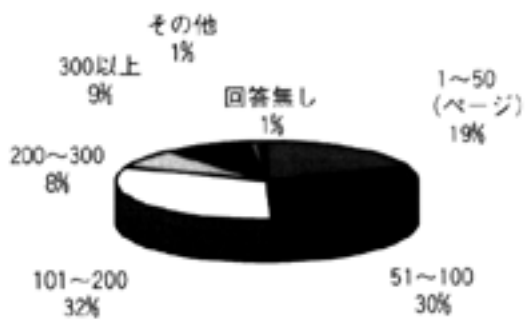
＜D.その他＞の内訳　隔年 8誌，1回/3年 1誌 ほか

３．平均のページ数はどのくらいですか。過去の発行数が多数に上るときは、ここ５冊の平均をお教えください。

＜回答＞

1～50　（ページ）	21 誌
51～100	33 誌
101～200	34 誌
200～300	9 誌
300以上	10 誌
その他	1 誌
回答無し	1 誌

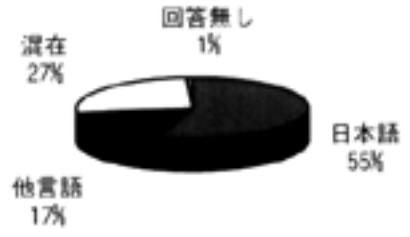
その他：WWW版のみ



４．本文の使用言語をお教えください。（複数回答可）

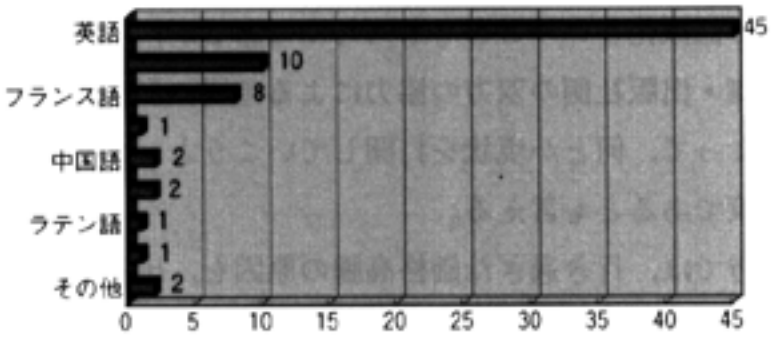
＜回答＞

A	日本語	64 誌
B	他言語	20 誌
A，B	混在	31 誌
	回答無し	1 誌



＜他言語の場合の使用言語＞

英語	45 誌
ドイツ語	10 誌
フランス語	8 誌
スペイン語	1 誌
中国語	2 誌
朝鮮語	2 誌
ラテン語	1 誌
イタリア語	1 誌
その他	2 誌



5．配布方法はどうなっていますか。

＜回答＞

A	有料で配布	18 誌
B	交換を前提として配布	17 誌
C	無条件（無償）で配布	66 誌
A，B	有料・交換	3 誌
A，C	有料・無条件	2 誌
B，C	交換・無条件	5 誌
A，B，C	全て	1 誌
	回答無し	4 誌

II．編集について

1．編集委員会およびそれにあたる組織はありますか。2．投稿規程はありますか。

＜回答＞

A	存在する	85 誌
B	存在しない	27 誌
	回答無し	4 誌

＜回答＞

A	存在する	60 誌
B	存在しない	51 誌
	回答無し	5 誌

3．編集・印刷段階での電子化の状況はどうなっていますか。

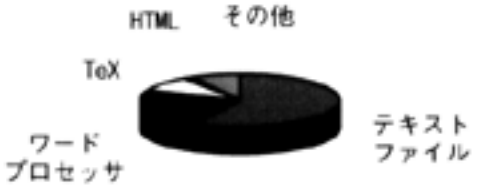
＜回答＞

A	電子的形式で編集	52 誌	
B	印刷業者にあらかじめ作成した版下原稿を渡す	22 誌	
C	印刷業者に手書き原稿を含んだまま渡す	50 誌	
D	その他	1 誌	不明

A.投稿を電子的形式で編集している場合の具体的な形式

＜回答＞

ア	テキストファイル	38 誌	58%
イ	ワードプロセッサ	16 誌	24%
ウ	ＴｅＸ	6 誌	9%
エ	ＳＧＭＬ	0 誌	0%
オ	ＨＴＭＬ	1 誌	2%
カ	その他	5 誌	8%



その他の内訳

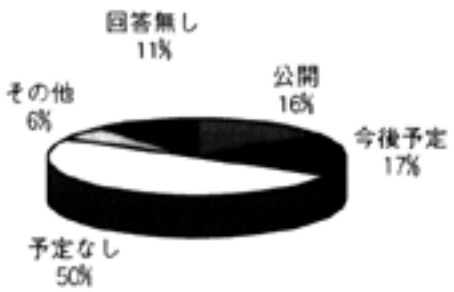
ページメーカーファイル
執筆者各人が作成した文書をフロッピーで渡している
書式付きテキスト(RTF)

III．インターネット(WWW等)での公開について

1．インターネットでの公開を行っていますか。

＜回答＞

A	公開	18 誌	16%
B	今後予定	20 誌	17%
C	予定なし	58 誌	50%
D	その他	7 誌	6%
	検討中	(5) 誌	
	検討する方向	(2) 誌	
	回答無し	13 誌	



＜公開内容＞

	公開中	公開予定
目次を公開	9	3 誌
抄録も公開	2	5 誌
全文も公開	5	5 誌
不明	2	7 誌

2．公開の際どのような方法をとっていますか。（予定含む）

＜回答＞　（「1．」で「公開」・「公開予定」を対象）（複数回答あり）

A	WWW	37 誌
B	FTP	誌
C	その他	1 誌
	回答無し	1 誌

3．公開の際のファイル形式は何を利用していますか。（予定含む）

＜回答＞　（「1．」で「公開」・「公開予定」を対象）

A	テキストファイル	29 誌	63%
B	TeX	3 誌	7%
C	PDF	2 誌	4%
D	画像	0 誌	0%
A，B	テキストファイル・TeX	1 誌	2%
A，D	テキストファイル・画像	1 誌	2%
	回答無し	2 誌	

4．アクセス制限は行っていますか。（予定含む）

＜回答＞　（「1．」で「公開」・「公開予定」を対象）

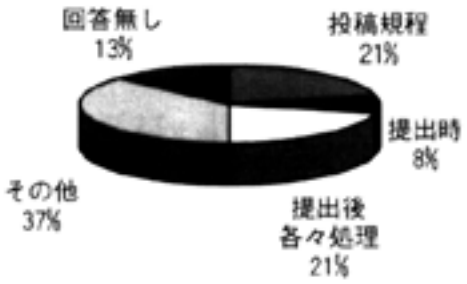
A	利用者登録	0 誌
B	ネットワークアドレス	0 誌
C	制限していない	36 誌
D	その他	0 誌
	回答無し	2 誌

5．公開に際して、掲載論文公開に関する著作権処理についてはどのように行っていますか。（予定含む）

A.投稿規程等に著作権処理に関する条項を盛り込んでいる。
B.論文提出に合わせて、著者と発行事務局で取り決めを結び、処理している。
C.論文提出後に、各々の著者からの許諾を受けている。
D.その他

＜回答＞　（「1．」で「公開」・「公開予定」を対象）

A	投稿規程	8 誌	21%
B	提出時	3 誌	8%
C	提出後各々処理	8 誌	21%
D	その他	14 誌	37%
	回答無し	5 誌	



「D.その他」内容

著作権処理を要しない	3 誌
特に定めていない	6 誌
不明（回答無し）	5 誌

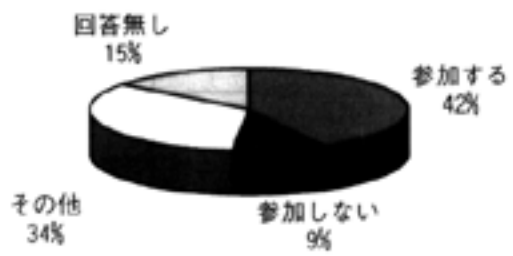
「1．」で「全文」を公開・公開予定

「全文」公開		公開中	公開予定
A	投稿規程	1	3
B	提出時		
C	提出後各々処理		1
D	その他	3 対象外・なし	1 未定
	回答無し	1	

6．附属図書館が今後WWW等で公開を行うとしたらいかがでしょうか。

＜回答＞

A	参加する	49 誌	40%
B	参加しない	11 誌	9%
C	その他	39 誌	31%
	回答無し	17 誌	



「C.その他」内容

協力する	4 誌
検討する・検討を要する	24 誌
参加に消極的	7 誌
その他	2 誌
不明	2 誌

→　図書館の具体的な公開計画が不明であるため回答できない
当会のweb siteにリンクを張ってほしい

平成９年度特別図書購入報告

特別図書購入費(文部省配分)によって下記資料を購入し，本館に備え付けましたのでご利用ください。

番号	資料名	内容	出版形態
1	Journals of the House of Lords Vol.1(1547)-225(1992) 〔イギリス貴族院議事日誌〕	イギリス議会の16世紀以降今日までの貴族院の議事日誌	図書
2	太学文献大成	中国の士大夫教育機関である太学・國子監に関する明清時代の文献の集成	図書
3	隠語辞典集成	明治から昭和に刊行された隠語辞典を厳選収録したもの	図書
4	Social Theory and Methodology 〔社会学国際叢書〕	1940年代にカール・マンハイムが創刊した社会史上最も重要なシリーズ刊行物といわれる叢書（パーソンズ，デイッキンソン，オッソフンキなどの著作をカバー）	図書
5	Southeast Asia Research 〔東南アジア研究〕	インドネシアを中心とした東南アジア関係の基礎的文献のうち，現在絶版となって入手困難なもののリプリント版	図書
6	戦後体育基本資料集	昭和20年代に刊行された体育に関する文献の集成（一般理論をはじめ，制度・法令関係，施設用具関係，歴史社会学関係などの文献を収録）	図書
7	アメリカ合衆国対日政策文書集成 第２期・第３期	アメリカ国務省が所蔵する日米関係文書から，日本の対外経済（'59－'60）及び国内事情（'60）に関する文書の集成	図書
8	近代日本国際関係条約資料集　第４編	1648年のウェストファリア条約以降の条約及び関連の外交文書を体系的にまとめた資料集のうち19世紀コーロッパ外交の部分	図書
9	Early Urban Planning 〔初期９都市計画：文献コレクション〕	欧米における近代都市・地域計画成立期の主要文献集	図書
10	The Results of the Urguay Round 〔ウルグアイ・ラウンド最終合意文書集成〕	26,000ページを越えるウルグァイ・ラウンドの最終諸文書を集成	CD-ROM
11	The Gibbs Archive. The Papers of Antony Gibbs & Sons 1744－1953 No. 268－286 （ギブス商会営業資料集成）	マーチャント・バンクの歴史，イギリス経済史の金融的側面，外国貿易との関連など，幅広い営業資料	マイクロフィルム
12	資料　新聞社説に見る朝鮮　全６巻 別冊１	明治初年から同28年までの主要新聞15紙に掲載された朝鮮に関する社説2816件を所収	図書

番号	資料名	内容	出版形態
13	The American Slave : A Composite Autobiography Supplement Series 1 12 Vols. 1978 （アメリカ奴隷総合資料集　補遺１） The American Slave : A Composite Autobiography Index to the American Slave 1981 （アメリカ奴隷総合資料集索引）	1920-30年代に集められた旧奴隷達のインタビューを収録（補遺シリーズ１は追加的なインタビューを含む） 同上の索引	図書
14	Early English Books Unit 97.98.99(1997) （近世初期英語印刷文献集成）	清教徒革命から王政復古にいたる期間の英国初期刊本を集成	マイクロフィルム
15	Parliamentary Debates（Hansard）1997 House of Lords 5th ser. Vol. 573－579 House of Commons 6th ser. Vol. 277－290 （英国議会議事録）	英国議会両院における会期ごとの議員の発言・討論を逐語的に収録	図書

第29回国立大学図書館東北地区協議会総会

標記会議が４月23日（木）山形大学を会場として東北地区７大学より31名が参加して開催された。

協議に先立ち，山形大学関口館長の挨拶があり，続いて慣例により会場館の関口館長が議長に選出された。

出席者の自己紹介の後，本学辻事務部長から，国立大学図書館協議会が行った中小規模図書館のアンケート結果等について報告があった。

次いで，次の協議題について討議が行われた。

１）第45回国立大学図書館協議会総会関係資料の提出について

２）行政改革とこれからの大学図書館事務組織の在り方について

３）図書館業務の軽量化とこれに伴う法規等の見直しについて

４）電子ジャーナルの導入と提供について

５）第46回国立大学図書館協議会総会の開催について

その結果，次のとおり決定した。

１．文部大臣等に対して特に要望すべき事項

（１）学術図書・雑誌・電子情報資料等購入費の増額について

（２）電子図書館化に対応したシステムの高度化並びに施設の整備・充実について

（３）有能な図書館職員の確保及び処遇改善について

２．総会の分科会で検討するための協議題

（１）行政改革と大学図書館事務組織の在り方について

（２）電子ジャーナルの導入と提供について

なお，平成10年度理事候補館及び所属部会並びに地区連絡館がそれぞれ次のとおり選出された。

理事候補館

宮城教育大学附属図書館（第１部会）

東北大学附属図書館（第２部会）

地区連絡館

東北大学附属図書館

附属図書館商議会商議員名簿

平成10年4月1日現在

所　　属	氏　　名	任　　期
図書館長	小田忠雄	官職指定 (9.12. 1～12.11.30)
医学分館長	高坂知節	官職指定 (7.12. 1～10.11.30)
北青葉山分館長	加藤順二	官職指定 (8. 4. 1～10. 3.31)
工学分館長	本間基文	官職指定 (10. 4. 1～12. 3.31)
農学分館長	伊藤敞敏	官職指定 (9. 4. 1～11. 3.31)
事務局長	伊藤博之	官職指定 (8.11.1～　　)
文学部教授	佐藤勝則	10. 4. 1～11. 3.31
教育学部教授	水原克敏	9. 4. 1～11. 3.31
法学部教授	森田寛二	10. 4. 1～12. 3.31
経済学部教授	河野昭三	10. 4. 1～11. 3.31
理学部教授	吉藤正明	8. 4. 1～12. 3.31
医学部教授	飯沼一宇	8. 4. 1～12. 3.31
歯学部教授	山田　正	5. 4. 1～11. 3.31
薬学部教授	竹内英夫	10. 4. 1～12. 3.31
工学部教授	宮崎照宣	9. 4. 1～11. 3.31
農学部教授	折谷隆之	9. 4. 1～11. 3.31
国際文化研究科教授	橋田　坦	9. 4. 1～11. 3.31
情報科学研究科教授	浅野楢英	9. 4. 1～11. 3.31
金属材料研究所教授	福田承生	6. 4. 1～11. 3.31
素材工学研究所教授	板垣乙未生	10. 4. 1～12. 3.31
加齢医学研究所教授	貫和敏博	8. 4. 1～11. 3.31
科学計測研究所教授	宇田川康夫	10. 4. 1～12. 3.31
流体科学研究所教授	上條謙二郎	10. 4. 1～12. 3.31
電気通信研究所教授	矢野雅文	10. 4. 1～12. 3.31
反応化学研究所教授	山内清語	9. 4. 1～11. 3.31
遺伝生態研究センター教授	亀谷壽昭	8. 4. 1～12. 3.31
大学教育研究センター教授	関内　隆	9. 4. 1～11. 3.31
言語文化部教授	畠中美菜子	9. 4. 1～11. 3.31

人　事　異　動

平成10年4月1日現在

発令年月日	旧官職	氏名	新官職	備考
10. 3.31	工学分館長	福田　正		任期満了
〃	附属図書館情報管理課長	宮坂　寛		定年退職
〃	附属図書館情報サービス課相互利用掛長	米倉　進		〃
〃	農学分館図書掛	沼田恵美		〃
〃	事務補佐員（情報管理課受入掛）	真野伸枝		退職
〃	事務補佐員（情報管理課受入掛）	渡辺隆子		〃
〃	事務補佐員（医学分館運用掛）	中島千恵		〃
〃	事務補佐員（医学分館運用掛）	佐々木　亨		〃
〃	事務補佐員（医学分館運用掛）	飛井賢治		〃
9. 4. 1		本間基文	工学分館長	併任
〃	金沢大学附属図書館情報管理課長	由良信道	附属図書館情報管理課長	転任
〃	学術情報センター事業部システム管理課長	早瀬　均	附属図書館情報サービス課長	〃
〃	総務課庶務掛長	三澤隆一	医療技術短期大学部庶務掛長	〃
〃	宮城教育大学附属学校庶務係長	馬渕信武	附属図書館総務課庶務掛長	〃
〃	総務課会計掛長	荒木田　弘	教育学部会計掛長	配置換
〃	経済学部会計掛長	葛巻　進	附属図書館総務課会計掛長	〃
〃	文部事務官（総務課システム管理掛長）	阿部佳一	文部事務官（情報サービス課互利用掛長）	〃
〃	文部事務官（情報管理課受入掛長）	松井好次	文部事務官（総務課システム管理掛長）	〃
〃	文部事務官（工学分館管理掛長）	吉川和幸	文部事務官（情報管理課受入掛長）	〃
〃	文部事務官（情報管理課和漢書目録情報掛長）	小松武彦	文部事務官（医学分館運用掛長）	〃
〃	文部事務官（医学分館運用掛長）	日出　弘	文部事務官（情報管理課和漢書目録情報掛長）	〃
〃	医学分館総務掛長	佐々木國明	庶務部広報調査課専門職員	〃
〃	学生部厚生課専門職員	廣木貞男	医学分館総務掛長	〃
〃	文部事務官（工学分館整理・運用掛長）	大原正一	文部事務官（工学分館管理掛長）	〃
〃	宮城教育大学附属図書館整理係長	京極菊子	工学分館整理・運用掛長	〃
〃	文部事務官（情報管理課洋書目録情報掛）	内ヶ崎洋一	仙台電波工業高等専門学校庶務課図書係長	昇任
〃	総務課会計掛主任	高山敏子	農学部経理掛主任	配置換
〃	医学部附属病院医事課	菅原ちはる	附属図書館総務課会計掛	〃
〃	宮城教育大学附属図書館	鈴木智博	附属図書館総務課システム管理掛	転任
〃	文部事務官（情報サービス課閲覧第二掛）	横山美佳	文部事務官（情報管理課和漢書目録情報掛）	配置換
〃	文部事務官（情報サービス課参考調査掛）	木村元子	文部事務官（工学分館整理運用掛）	〃
〃	文部事務官（北青葉山分館管理掛）	今出朱美	文部事務官（情報サービス課参考調査掛）	〃
〃	文部事務官（情報サービス課閲覧第一掛）	佐藤直人	文部事務官（農学分館図書掛）	〃
〃	文部事務官（金属材料研究所総務課図書掛）	佐藤百代	文部事務官（情報サービス課閲覧第一掛）	〃
〃	文部事務官（情報サービス課相互利用掛）	真籠元子	文部事務官（医学分館整理掛）	〃
〃	文部事務官（医学分館整理掛）	森脇ちか	文部事務官（金属材料研究所総務課図書掛）	〃

発令年月日	旧　官　職	氏　名	新　官　職	備　考
9．4．1	文部事務官（農学分館図書掛）	藤沢和子	文部事務官（北青葉山分館管理掛）	配置換
〃	文部事務館（電気通信研究所総務課図書掛）	鹿島正子	文部事務官（工学分館管理掛）	〃
〃	文部事務官（工学分館管理掛）	武内桂子	文部事務官（農学分館図書掛）	〃
〃	文部事務官（工学分館管理掛）	山本衆子	文部事務官（電気通信研究所総務課図書掛）	〃
〃	事務補佐員（情報管理課受入掛）	佐藤和子	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	〃
〃	事務補佐員（情報管理課和漢書目録情報掛）	渡辺春美	事務補佐員（情報管理課受入掛）	〃
〃	事務補佐員（情報管理課洋書目録情報掛）	斉藤房江	事務補佐員（情報管理課逐次刊行物掛）	〃
〃	事務補佐員（情報管理課逐次刊行物掛）	中鉢たか子	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	〃
〃	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	高橋八千代	事務補佐員（情報管理課洋書目録情報掛）	〃
〃	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	原千代子	事務補佐員（情報サービス課相互利用課掛）	〃
〃	事務補佐員（医学分館運用掛）	吉原朱實	事務補佐員（医学分館整理掛）	〃
〃	事務補佐員（医学分館整理掛）	渡辺裕美	事務補佐員（医学分館運用掛）	〃
〃		伊藤剛	事務補佐員（医学分館運用掛）	採用
〃		菊地友信	事務補佐員（医学分館運用掛）	〃
〃		加納雅之	事務補佐員（医学分館運用掛）	〃
〃	事務補佐員（工学分館整理・運用掛）	大沼和子	事務補佐員（工学分館管理掛）	配置換
〃	事務補佐員（工学分館管理掛）	藤野曜子	事務補佐員（工学分館整理・運用掛）	〃

会　議

◎学　外

10.4.23　国立大学図書館東北地区協議会総会（於：山形大）

5.26　国立大学図書館事務部課長会議（於：東京医科歯科大）

5.27　国立大学図書館協議会受賞者選考委員会（於：東京大）

〃　図書館情報システム特別委員会（於：東京大）

〃　著作権特別委員会（於：東京大）

国立大学図書館協議会常務理事会（於：東京大）

10.5.28　国立大学図書館協議会理事会（於：東京大）

〃　国立大学図書館協議会公開事業実施委員会（於：東京大）

29　国立大学図書館協議会と学術情報センターとの事務連絡会議（於：学情センター）

6.11　外国雑誌センター館会議（於：東工大）

24～25　国立大学図書館協議会総会（於：鹿児島大）

お　知　ら　せ

平成10年度総合研修委員決まる

今年度の総合研修委員の選挙が来る４月23日24日の両日実施され，下記の５名が選出された。

館長より委員の委嘱をうけ，この１年間職員のための研修計画と実施に活躍されることが期待される

記

今　出　朱　美
湯　目　昌　史
柴　田　淑　子
高　橋　菜穂子
日　出　　弘

編　集　後　記

大学図書館を取り巻く環境は大きく変化し，特に図書館資料や利用者へのサービスの面で高度情報化と相まってかなり多様化しており，附属図書館においてもこれに対応できるよう一生懸命取り組んでいるところです。

また，大学図書館の社会への公開要請に対応するため，本館所蔵資料の公開に向けて展示会などの検討を行っているところです。

附属図書館の館報である木這子を発行してから今年度で23年になりますが，この編集に携わっている広報委員会も今年度からメンバーが一新し，広報のあり方を含めた検討を行いながら，皆さんのご協力をいただきより良き館報を発行していきたいと考えております。

広報委員

谷内　聰　渕辺　剛　馬渕　信武
日出　弘　湯目　昌史　鈴木　陽子
相川　晶子　泉　ふじこ　竹内　桂子

東北大学附属図書館館報「木這子」　第23巻第１号（通巻82号）発行日　平成10年６月30日
発　行　人　辻　　英雄　　広報委員長　谷内　　聰
発　行　所　東北大学附属図書館　仙台市青葉区川内　電話　022-217-5910